

SPRING!



大山鎬則

登場人物

三木田 文子（みきたふみこ）… 高校2年、最近唯一の肉親である父を亡

くした。

三浦 優人（みうらゆうと）… 高校2年、文子の恋人、サッカー部員。

鈴木 リカ（すずきりか）… 鈴木家の長女、文子の腹違いの姉。

鈴木 有紀子（すずきゆきこ）… 鈴木家の次女、人気劇団の主宰。

鈴木 香奈（すずきかな）… 鈴木家の三女、一児の母

山崎 務（やまざきつとむ）… 有紀子の劇団の劇団員、有紀子と劇団を旗
揚げした。

角田 ひろみ（かくたひろみ）… 優人の担任。

海野 沙耶（うみのさや）… 文子と優人の親友。

権田 信人（ごんだのぶと）… 優人の所属するサッカー部顧問。

鈴木
リカ

三浦
優人

三木田
文子

登場人物

S
P
R
I
N
G
!

8
5
L
I
V
E

S
I
G
N
A
L
S

権田	海野	角田	山崎	鈴木	鈴木
信人	沙耶	ひろみ	務	香奈	有紀子

冬、東京、青山ブックセンター脇のベンチ。

街路樹は葉を落として、寒風に身をさらしている。

その下に、ベンチに座る学生服姿の

三木田文子と三浦優人。

優人と文子の手には、ファーストフードのコーヒーカップ。

優人 やっぱ苦い。

文子 だから言ったじゃんか。

優人 うん。

文子 コーラにしとけばいいって言ったじゃんか。

優人 女がブラックで男がコーラじゃかつこつかなくない？

文子 んな、余計なかつこつきは望んでないって。

優人 お前はよくこんなの飲めるな。

文子 うん。

優人 苦くないの？

文子 苦いのがいんだって。

優人 いつから慣れたの？

文子 割と最初から飲めた。

優人 最初っていつ？

文子 病院。

優人 お父さんの時？

文子 うん。自動販売機があって、いつもはカフェオレだったんだけど、たまにはと思って飲んでみたら、意外といけ

た。

優人 ふーん。

文子 気分変えたくてさ、さすがにね、弱ってくお父さんのそばに居るのもしんどくてさ、でも、病院じゃ、コーヒー飲むくらいしかなくて。それ以来、ブラックになった。

優人 そうか。

文子 うん。

優人 なあ。

文子 なに？

優人 お父さんが死ぬってどんな気分？

文子 どうって・・・。

優人 悪い、今の忘れて。

間。

優人 寒いな。

文子 うん。

優人 渋谷でも行く？

文子 渋谷行っとうすんの？

優人 赤とんぼでも行っパスタ食う？

文子 私これからお姉さんと会ってご馳走になるんだって。

優人 あ、そっか、何時？

文子 8時。

優人 まだあんじゃん、渋谷行こうぜ。

文子 練習いいの？

優人 いいよ。

文子 よくないでしょうよ、ポジション奪われんぞ。

優人 いいよ、奪われたって。

文子 権田先生、駒沢の監督さんに紹介してくれたんでしょ？

今サボるのはやばくない？

優人 あのさ、駒沢って名門なんだ。

文子 全国大会で優勝とかしてんでしょ。

優人 うん。だから皆うまいんだ。

文子 そうだろうね。

優人 この前、練習に参加して分かったけどさ、俺のレベルじゃないよ。

文子 ……。

優人 一軍のサイドバックやばいよ、あれは、速いし、クロス

は正確だし、90分走りっぱなしだし、やばいよ。俺な

んかどんなに頑張っても絶対越えらんない。だからもう

いいんだ、サッカーは、てっ辺間近に見て目が覚めた。

だからもういいんだ、サッカーは。

文子 最後まであきらめなかったって聞いたよ。

優人 ……。

文子 何度も止められたって聞いたけど、何度止められてもあきらめずに向かって行っただって聞い

たよ、権田先生から。

優人 ……。

文子 もういいって思ってるのに、何で最後まであきらめなかったんだよ。

優人 ……。

文子 なんでだよ。

優人 もういいって。終わった話し、最後だと思って頑張ったの。でも抜けなかったの。はいおしまい。

文子 私グツときたんだけど。

優人 え？

文子 その話し聞いて、泣きそうになったんだけど、やっぱり私の彼氏は凄いつて、泣きそうになったんだけど。

優人 ……。

文子 優人がサッカーやめたら、私寂しいんだけど。

優人 サッカーじゃないの助けにもなれないじゃん。

文子 ……。

優人 一人になった文子がさ、一人でやってこうとしてんの俺のうのとサッカーやってらんないから。

文子 ……。

優人 だから、卒業したら二人で働いて、やって行こう。

文子 私がさ……。

優人 うん。

文子 サッカーやめた優人はかつこよくないって言ったらどうするよ。

優人 俺がサッカーやめたら、文子は俺のこと嫌いになんの？

文子　　そうは、言っていないけど。

優人　　それはきついなー。俺が好きなんじゃなくて、サッカーやっってる俺が好きってこと？

文子　　そうは言っていないけど。

優人　　けどなんだよ？

文子　　言い訳にしない？

優人　　何を？

文子　　天辺見て、怖くなって、逃げたくなって、逃げる理由にしない？私のことを。

優人　　・・・。

文子　　そんな理由だったら、別に私助けてもらわなくていいから。

優人　　そんな理由じゃない。

文子　　・・・。

優人　　サッカーは続けたいけど、その思いより俺の思いは強い。

文子　　どんな思い？

優人　　文子が好きだって思い。

文子 やめろ。

優人 なんで。

文子 照れるから！

優人 とにかく、俺、サッカーなんかやめて、文子と一緒にやつてくから、文子の助けになるから。

文子、いらいらと頭をかく。

優人 お姉さんって、この辺で働いてるの？

文子 うん、なんかね、カウンセラー？してるらしい。この辺の、カウンセリング、ルーム？

優人 ふくん、何食うの？

文子 分かんないけど、なんか、イタリアンとか言ってた。

優人 高い店だ。

文子 知らないけど。

優人 サイゼリヤじゃないだろ、表参道だもんな、高い店だ。

文子　だから知らないよ。

優人　いつか、二人で行こうな、高いイタリアン。

文子　そんな日が来ますかなあ。

優人　来るって、ワインとか飲もうぜ。白の飲みやすいやつ、
なんて言ってさ。

文子　優人コーヒーさえ飲めないじゃん。

優人　酒は飲める。

文子　飲んだことあんの？

優人　いや、ないけど。練習しとく、その日に備えて。いつか
飲もうぜ。

文子　そんな練習しないでいいから。サッカーの練習しろ。

優人　もう、なんだよ、サッカーサッカー、お前は監督か！

文子　私ザック文子って呼ばれてるから。

優人　呼ばれてるか！

文子　あだ名岡ちゃんだし。

優人　何を言うんだ、ふーみんなが。

間。

優人 そのお姉さんってさ、お父さんの葬式で初めて会ったんだろ？

文子 そうだよ。

優人 なんでそんなに文子のこと気にかけてくれてんの？

文子 さあ、分かんない。私もちよっと困ってんだよね。

優人 困ってんだったら断ればいいじゃん。

文子 そうも行かないの。

優人 そうか。でもまだ時間あんじゃん、渋谷行こうぜ。

文子 渋谷渋谷って、あんた渋谷で何がしたいの？

優人 別に、ぶらぶら。

文子 ぶらぶらねえ。

優人 円山町の辺りでも。

文子

・・・。

優人

円山町の辺りでも、ぶらぶらと。

文子

もう、最悪だから！いいからあんたは練習行けって！

文子、怒って行ってしまう。

それを追って、優人も行く。

入れ替わりに、男と女が現れて、座る。

カウンセリングルーム。

文子の腹違いの姉、鈴木リカの勤めるカウンセリングルーム。患者の山崎務のカウンセリングをしている。務はリカの妹の有紀子が主宰する劇団の劇団員、そのことはおいしい物語の中で触れられる。

務 まあ、好きなんですよね。

リカ ええ。

務 まだ、俺、有紀子のことが好きなんですよね。

リカ ええ。

務 あいつの方には好きって感情はもうないと思うんです。でも、俺の方にはまだあって、あいつも俺には情はあると思うんです。だから、俺のことを切れないのかなって思うんです。

リカ ええ。

務 情け無い話ですよね、役者としては、俺、あいつの書くものとか演出には、もうついていけないんです。それは分かるんです、今度の芝居なんて、俺の役、三つしかセリフが無くて、5分しか舞台にいないんです。

リカ どんな役なんですか？

務 サボってる後輩に、嫌みを言っただけ、それだけの役です。だけど、それだけの演技をしてる俺を見て、あいつ

あきらかに困ったって顔をしてるんです。

リカ どう、困ってるんでしょう。

務 できてないからでしょう。でも、どうできてないかが、肝心の俺に分かってないんです。だから、さらに、困ってる。

リカ どう、できてないかは言ってくれないんですか？

務 言ってどうなる、そういうところを越えたできてなさな
んだと思います。

リカ 山崎さんの方から聞いたりはしないんですか？

務 聞いても、ただ楽しんでやってくればいいとしか言わな
くて。

リカ そうですか・・・。

務 これが、入ったばかりの新人なら、まだいいんでしょう
けど、何せ創立メンバーですからね、一緒に劇団始めて
15年経つんですからね、そりゃ困ると思うんです。で
も、どうしていいか、分からないんだなあ。

リカ ああ。

務 はい。

リカ 例えば、別の劇団に行って、環境を変えてみるとか、そういうことは難しいんですか？

務 それはできません。

リカ どうしてでしょう？

務 縁が、切れる感じがして。

リカ その、主宰の、有紀子さんと？

務 そうです、辞めたら、もう2度と話せない気がして。怖いんです。それに、俺はあいつの作る芝居が大好きなんです。

リカ お聞きしていると、山崎さんにとって、その主宰の方はとても大きな存在なんですね。

務 そうですね、芝居に誘ったのは俺の方なんですよ。

リカ そうなんですか。

務 劇研に誘ったんです、可愛かったから、一緒に居たかった

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

SPRING!（おためしサンプル）

2012年10月6日 初版発行

著 者 大山鎬則 © 2012年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
